

## 2022年度 事業所における自己評価結果(公表)

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	17	0	・利用人数が多い時には部屋を分けている。 ・部屋の使用予定もスケジュールに取り入れている。	法令を遵守したスペースを確保しています。
	② 職員の配置数は適切である	17	0	・適切であり子どものその日の様子に合わせることが出来ていると思う。 ・配置数がわかる管理ソフト使用し管理・配置している。	法令で必要とされる配置数に加え、指導員又は保育士を1名以上配置（常勤換算による算定）しています。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	17	0	・出ているものを少なくすることでやるべきことに集中できる環境づくりを心がけている。職員間でも常に共有をしている。	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	17	0	・毎日の片付けに気を付け、危険なものが落ちていないか確認している。 ・掃除・整理を多い頻度で行っている。 ・ほこりやごみが多い時がある。昼に集団が終わったタイミングで、一度掃除機やモップがけが出来ると良いかと思う。また、個別が終わった時には机やイスをアルコール消毒してから次の個別に引き渡せると良いかと思う。	療育終了時の親御様のお迎えが時間を過ぎてしまった際や、療育が予定より伸びてしまった際には次の療育までに時間がなく清掃が行き届かない場合がありますが、最低限の除菌や衛生管理には各自責任をもって努めています。今後は、職員間の業務を調整し合いながら、更に清潔な状態を保てるように工夫してまいります。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	16	0	・毎日の振り返りに加え、定期的に会議をすることで次へつなげている。 ・職員研修（施設内）を定期的に行い、一人一人が心がけられる機会を設けている。	毎日の朝礼・終礼時に利用者やプログラム、業務に関する共有と見直しを行っています。また、月に1回の全体会議や部門ごとの会議も適宜行い、PDCAを心がけています。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	15	0	・保護者からの声はすぐに共有をし、改善や検討をする体制をとっている。	所内に保護者向け評価表、自己評価表の結果を掲示し保護者様も職員も閲覧できる形にしています。職員全員が結果を把握し、改善を意識した業務を行うよう努めます。
	⑦ 事業所向け自己評価及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	14	0		
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	13	0		事業所として大学研究者のSVチームに評価・指導を受けています。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	16	0	・大学の研究チームのSVなどとても参考になっている。 ・様々な方面から専門的な知識を身に着ける機会が設けられている。 ・定期的にその時に必要と思われる内容の物を実施している。	適宜、職員に所内研修を実施し、SVチームによる研修も適宜受けています。また、専門性向上のための外部研修にも適宜参加してもらっています。今後は研修内容の共有や定例化を進めていきます。
適切な支援	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	15	1	・必要に応じて検査を実施し、その結果を踏まえて計画書を作成している。 ・共有やモニタリングを職員間で密に行っている。	アセスメントは、お子様の行動観察や保護者様からの聞き取りを中心に、成育歴から現在のご家族の状況、通園先での様子（訪問を含む）や他事業所からの情報、医療機関からの情報、発達検査の結果を含めて包括的に行うこととし、それに基づいた個別支援計画書作成および療育の実施を進めています。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	16	1	・どのような場合・タイミング・時期にどのツールを使うのか考えていきたい。 ・ツールを使用し、評価・結果を保護者にフィードバックしている。 ・特に集団のみ利用しているお子さんに関して、集団の場での行動観察が評価となっているので、できれば標準化された検査をとることが望ましいと思う。	すべての利用児の保護者様に「KIDS乳幼児発達スケール」「感覚プロファイル」をご記入いただき、基本的なアセスメントツールとし、結果のフィードバックを行っています。発達検査はご家族様のご希望と必要性を勘案しながら実施しております。（就学までの間に2回ほど発達検査を実施するケースが多くなっております。）

の 提 供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	15	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問等で地域の園との関係性を作っていると思う。</li> <li>・事業所の利用児の様子だけではなく、園などでの様子やご家庭での様子を見聞きして総合的に支援内容を設定している。</li> </ul>	
-------------	---	--	----	---	---	--

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	17	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に確認し支援している。</li> <li>・定期的に振り返りながらプログラムを作成している。</li> </ul>		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	17	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の意見を取り入れて進めている。</li> <li>・役割を決めて実施している。</li> <li>・気になるところはほかの職員に相談し、必要に応じてPTにもアドバイスを頂いたりするようにしている。</li> </ul>		
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	17	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に子どもたちの現状に合わせてプログラムが作られていると思う。</li> <li>・常に利用者の反応を見て見直している。</li> <li>・見直し時間を設けている。</li> </ul>		
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	16	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別・集団を適宜提案している。</li> </ul>		
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	17	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今子どもたちのために何が出来るのか、何が必要なのか共有できる打ち合わせだと思う。</li> <li>・毎日行い、漏れないようにしている。</li> <li>・打ち合わせを行う中で、違った視点や活動内容の提案があった時などは積極的に取り入れるようにしている。</li> </ul>		
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	17	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細かい部分の振り返りがあり、次のプログラムや支援内容に活かしていると感じる。</li> <li>・記録としても残し、次回に役立てている。</li> </ul>		
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	17	0			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	16	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に他の職員の方にも一緒に個別に入ってもらい、新たな視点で診てもらえると違う気づきも出来、支援の方向性を考えられるかと思う。（自分一人だと経験も少なく見方の偏りもあると思うので。）</li> </ul>		
	関 係 機 関	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	16	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて担当で集まり、専門性の高い会議を実施している。</li> </ul>	
		㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	17	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に連携を進めており、保護者へも提案をすることもある。</li> </ul>	
㉓		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	10	0			

や保護者との連携関係機関や保護者との連携	②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関と連絡体制を整えている	8	0		
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	17	0	・保護者とも共有しながら訪問や情報の共有等を積極的に動いて行っている。	
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	16	0	・就学支援シートやサポートノートはすばらしいと思う。 ・就学支援シートという形で共有している。	
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	16	0	・連携・共有時にご助言いただいている。	
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	7	・矢の口幼稚園のイベントに行ったりしている。 ・訪問時などに子どもを見て少しかわりを持つことがある。 ・利用児がそれぞれ通園先があるため(特に機会を設けていない)。 ・障害のない子どもとの活動の機会がない。矢の口幼稚園の園児と交流する体験が持てると良い。	どのような形で交流が可能か、各施設や職員間で話し合っ ていきたいと思っています。

	②⑨	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	13	1		児童発達支援管理責任者(放デイ・児発)、主任、他職員が参加しています。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	17	0	・送迎などのちょっとした機会にお子さんの情報共有が出来ている。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	15	0	・保護者との面談の中で家族支援を意識している。 ・グループでのペアレントトレーニングが実施できると、より多くの人に提供出来ると思う。	必要に応じて個別にペアトレを実施しています。 多くの保護者様には計画書面談を始め、適宜面談の機会を設けて出来る限りの家族支援を行っているところです。 ご家族からのご要望も増えてきているため、定期的・体系的な実施を今後の課題としています。
	③⑫	運営規定、利用者負担額等について丁寧な説明を行っている	14	0		契約時に児童発達支援管理責任者が運営規程、利用者負担等について、契約時に丁寧に説明するとともに事業所内に重要書類を掲示しています。 保護者様のご相談や問い合わせにはお時間をいただき面談にてお話をいただいています。
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	16	0		
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	17	0	・保護者の様子を注意することで適宜、聞き取り・面談を実施している。 ・こちらからも保護者へアプローチしている。	

保護者への説明責任等	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染予防の観点から参観週間での保護者顔合わせの機会が減っている。年長児対象に行ったお楽しみ会が良い保護者交流になったので定例化したい。</li> <li>・コロナ予防のため、保護者会と言う形はとっていない。</li> <li>・参観やイベントの際には保護者同士が関わりを持てる空間を設けている。</li> <li>・就学に向けた説明会や参観日に交流を図っている。</li> <li>・父母の会はないが、座談会（父母参加型）で交流の機会が持っている。</li> </ul>	今年度も、コロナ感染状況に最も大きく左右された事業の一つでした。オンラインで就学説明会に参加された保護者様からご好評をいただいているため、今後はオンライン交流会の実施を含めて、保護者様のニーズにこたえていきたいと思っています。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	16	0		
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	15	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月お手紙にて活動内容をお知らせしている。</li> </ul>	
	③⑧	個人情報等の取扱いに十分注意している	17	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真にも配慮されている。</li> </ul>	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	17	0		
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなかそこまでの余力がないが、移動水族館などが再開できると良い。</li> <li>・コロナ予防のためむずかしいのは、自分が把握できていないだけかもしれないが、コロナの影響もあり難しいと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウィルス流行の改善状況に応じて、積極的に企画をしていきたいと思っています。</li> </ul>
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	16	0		
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	17	0		
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	14	0		

	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児がいなかったため現在は対応なし。</li> </ul>	アレルギーに限らず接触指導を受けている利用児については、保護者様（必要に応じて担当医）からの情報共有に基づいて、指導員が食事の介助を行っています。イベント時のおやつなどについては、すべての保護者様に対して事前に原材料をお知らせし、提供の可否を確認しています。
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	14	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハットも多数になったので、まとめてみると学びになりそう。</li> </ul>	小さなことと個人判断せず、「ひやり」としたことに関しては記録に残し職員間で共有するように心がけています。心理的安全性を大切にしながらヒヤリハット事案の振り返りと研修の機会を設けたいと思っています。
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	14	0		

	<p>④7          どのような場合にやむを得ず          身体拘束を行うかについて、          組織的に決定し、子どもや保          護者に事前に十分に説明し了          解を得た上で、児童発達支援          計画に記載している</p>	<p>13</p>	<p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象の方がいないため現在は記載なし。</li> <li>・必要に応じてここに設定してはいると思              うが、個別支援計画に記載はしていな              ため「いいえ」とした。</li> </ul>	
--	---	-----------	----------	--	--

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。